



あいさつからはじまる人の輪！

さて、早いもので、1学期も残すところわずかとなりました。4月より保護者の皆様には本校の教育に御理解と御協力をいただき、感謝申し上げます。本校の学校教育目標は「自分を大切に し 他者を大切にする 児童の育成」です。予測困難と言われるこれからの時代を、子供たちが自分らしく、そして他者と協働しながら力強く生き抜いていくために、学校として今、大切に育みたいと考えているものがあります。それが「あいさつ」です。

挨拶は、単なる日常の作法やマナーに留まるものではありません。それは、自立した一人の人間として社会に参画するための「もっとも根幹にある力」です。人が社会の中で生きていくとき、異なる考え方や多様な背景をもつ人々と関わり、信頼関係を築いていく必要があります。その際、あいさつは「私はあなたを敵だと思っていません」「あなたの存在を認め、敬意を払っています」というメッセージを伝える、最もシンプルで強力なコミュニケーションツールとなります。そこで、あいさつのもつ大切さについて、三つの側面から考えていきたいと思います。

○自己開示と安心感の醸成

自ら進んであいさつをすることは、「心を開く」という主体性の表れです。相手に安心感を与えると同時に、自分自身の心をも安定させる力があります。

○共感力と社会性の基礎

相手の目を見て、状況に合わせたトーンで言葉を交わす。この一連のやり取りの中に、相手をおもひやる「共感力」が宿ります。これこそが、豊かな人間関係を築く社会性の土台です。

○危機管理と地域での自立

地域社会の中で普段から挨拶を交わし、顔見知りを増やすことは、子供たち自身を守るセーフティネット（防犯）になります。地域に守られ、やがて地域を支える一員としての自覚が、挨拶を通じて芽生えていきます。

「おはようございます」「ありがとうございます」「失礼します」・・・・・・・・。

これらの言葉を状況に応じて自然に使いこなせることは、子供たちにとって一生の財産であり、社会へ羽ばたくための「大きな武器」となります。学校においても、教職員一同が率先して心のこもったあいさつを実践し、子供たちがその大切さを肌で感じられる環境づくりに努めてまいります。しかしながら、子供たちにとって最大の学びの場は、やはり日々の生活の基盤である御家庭です。大人が身の回りの人や家族に対して気持ちよくあいさつを交わす姿こそが、何よりの生きた教材となります。子供たちが未来の社会で誰からも信頼され、豊かな人生を切り拓いていけるよう、家庭と学校が確固たる足並みをそろえていきましょう。今後とも変わらぬ御支援をお願い申し上げます。